

招集期日	令和元年9月25日(水)		会議の場所	学校給食センター
会議の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後1時30分	開会者	教育長
	閉会の時刻	午後2時30分	閉会者	教育長
委員出席状況				
氏名	摘要	氏名	摘要	
秋本文子 教育長	出席	平野博之 委員	出席	
柿沼拓弥 教育長職務代理者	出席	岩崎智子 委員	出席	
高瀬賢一 委員	出席			
議事参与者及び 説明のための出席者	川島学校教育部長	寺崎生涯学習部長	須永教育総務課長	矢野学校教育課長
	小島学校給食センター所長	岡田生涯学習課長	水野スポーツ振興課長	奥野図書館長兼郷土資料館長
書記名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開会	教育長	9月定例教育委員会を開会		
日程第1 前回会議録の承認	教育長	<p>教育委員会の会議は公開が原則となっているが、人事に関する事件等について出席委員の3分の2以上の多数で議決した場合は非公開とすることができる。本日の日程で非公開とすべき案件はないため、全て公開としてよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p> <p>8月定例教育委員会の会議録について諮った</p> <p>異議なしの声あり</p> <p>前回会議録は、承認された旨宣した。</p>		
	教育長	報告事項1から7について、学校教育課長から説明を求めた。		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 報告事項1 令和元年度埼玉県学力・学習状況調査結果の概要について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>4月11日に、小学校4年生から中学校3年生までを対象に、小学校4年生から中学校1年生までは国語と算数又は数学の2教科、中学校2年生と3年生は、国語、数学及び英語の3教科について調査を実施した。埼玉県学力・学習状況調査は、その子どもが前年と比較し、どのくらい伸びたかを確認することができるという特徴がある。今回の調査で県平均正答率を上回った学年と教科は、小学校4年生の国語である。小学校における全体的な傾向として、どの学年もそれぞれの教科で県平均正答率との差が縮まっている。中学校については、逆に県平均正答率との差が開いてしまう結果となった。各学校が調査の結果を独自に分析し、重点取組実施計画書を作成して教育委員会に提出しており、この計画書に基づき、2学期以降、課題の克服に取り組んでいる。教育委員会では、学校教育部長、学校教育課長及び学力向上担当の指導主事で学力向上に特化した学校訪問を行い、それぞれの学校の状況を把握しながら、指導を進めている。</p>
<p>報告事項2 令和元年度全国学力・学習状況調査結果の概要について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>4月18日に、小学校6年生と中学校3年生を対象に、小学校6年生は国語と算数の2教科、中学校3年生は国語、数学及び英語の3教科について調査を実施した。全国平均正答率を上回ったのは、小学校の国語である。小学校については、国語の学習指導要領の領域等での区分のそれぞれが全国平均正答率との差が僅かであることに対し、算数では全国平均正答率との差が少し開いている。中学校については、学習指導要領の領域等での区分のうち、国語では、「話すこと・聞くこと」、数学では、「数と式」「資料の活用」、英語では、「書くこと」において、全国平均との差が開いている状況である。</p>
<p>報告事項3 小・中学校における1学期の表彰の結果について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>小学校においては、第58回埼玉県硬筆中央展覧会において全校から特選賞や優良賞の受賞があった。中学校では、3校とも北埼玉地区中学校夏季総合体育大会において、いくつもの部活動が県大会に出場している。特に成績が良かったものでは、陸上男子1500メートルにおいて、南中</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項4 1学期における交通事故以外の事故・不登校等について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>学校3年生の生徒が県大会を経て全国中学校体育大会に出場した。全国大会では、残念ながら決勝に進出することができなかったが、大変な健闘であった。</p> <p>交通事故以外の事故については、6件発生した。そのうち学校の管理下が5件、管理外が1件である。昨年度の同時期と比べると3件増となったが、各事故とも迅速に対応している。しかし、どの事案ももう少しの配慮があれば、事故に至らなかった可能性があるため、校長研究協議会でも注意喚起を行っているところである。不登校数については、小学校4名、中学校32名、いじめの数については、小学校7件、中学校10件であり、学期ごとに埼玉県教育委員会に報告している。いじめや不登校については、全国的な課題でもあるが、羽生市として安心・安全な学校、信頼できる学校づくりを今後も進めていきたい。</p>
<p>報告事項5 令和元年度 1学期における交通事故の状況について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>交通事故の発生件数は6件であり、そのうち3件が自転車の事故であった。昨年度の同時期と比べると2件増となっている。発生時刻は午後が多いこと、自転車の事故が多くあったことについて、校長研究協議会でも注意喚起を行ったところである。各学校で交通安全指導を徹底することについて、教育委員会からも働きかけていく。</p>
<p>報告事項6 令和元年度羽生地区青少年健全育成地域フォーラムの開催について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>青少年の非行問題や不登校の問題などが、絶えない現状に対して、早急な解決のための具体的な行動や取組が必要である。そこで、羽生地区青少年健全育成地域フォーラムを、10月30日に産業文化ホールにて開催する。内容は、児童生徒の実践発表のほか、全国ICTカウンセラー協会代表理事の安川雅史氏を講師に招き、「ネットトラブル、ネットいじめから子どもを守る～最新事例とその対処法～」と題し、講演をしていただく。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項7 令和元年度羽生市人権教育研究集会の開催について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>羽生市立小・中学校教職員及びPTA役員が、人権教育の実践に関し研究協議し合うことにより、人権教育の推進を図ることを目的に、11月26日に羽生南小学校を会場として開催する。「同和問題」「学校における子どもの人権」「その他の人権課題」「PTAで取り組む人権課題」の4つの分科会に分かれ、研究テーマに沿った研究協議を行う。</p>
<p>報告事項8 第12回羽生市郷土芸能発表会の開催について</p>	<p>教育長</p>	<p>報告事項8から10について、生涯学習課長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項9 令和元年度羽生市人権教育研究会の結果について</p>	<p>生涯学習課長</p>	<p>地元の祭礼などで演じられている「郷土芸能」について、日々研さんに努めている演者たちに発表の場を提供し、後継者への伝承の促進と、地域文化に豊かさと彩りを添える「郷土芸能」を活性化させ、文化の振興を図ることを趣旨として、令和2年2月9日に産業文化ホールにて開催する。出演は、市内で郷土芸能を行う8団体で、出演団体による実行委員会形式での開催となる。公演の司会は羽生実業高等学校放送部に依頼し、幕間で高校生が出演団体を紹介する。昨年度は、出演者を含め515名の入場があった。</p>
<p>報告事項9 令和元年度羽生市人権教育研究会の結果について</p>	<p>生涯学習課長</p>	<p>8月23日に産業文化ホールにて開催した。内容は、小・中学生の人権作文の発表のほか、山形弁を話すことで有名なダニエル・カール氏を講師に迎え、「人と人とのつながり」をテーマに講演を行った。参加者数は、356人であった。人権作文の発表、講演ともに好評であり、アンケートに答えた全員から、「大変よかった」又は「良かった」との回答をいただいた。「このような機会は貴重なので是非継続してほしい」との意見も多くあったため、今後も参加者の興味や関心を高められる人権研究会を開催していきたい。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項10 羽生の古写真のパネル展示について</p>	<p>生涯学習課長</p>	<p>「古写真にみる羽生の昔」展というタイトルで、市制施行65周年を記念して、近代から現代にかけての古写真にみる当時の地域の風景から、市の成り立ちを窺う。展示期間は、11月19日から12月13日までとし、羽生市役所本庁舎1階エレベーター前にて、パネルにした昭和の街中、旧道などの古写真を、簡単な解説をつけて展示する。</p>
<p>報告事項11 第37回羽生市教育長杯争奪中学野球大会の結果について</p>	<p>教育長</p>	<p>報告事項11について、スポーツ振興課長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項12 児童文化講座「紙芝居のえいちゃん」による楽しい紙芝居&amp;紙芝居講座の結果について</p>	<p>スポーツ振興課長</p>	<p>9月7日及び8日の2日間に渡り、市内3中学校と加須市、行田市、さいたま市から7校5チームの合計8チームにより開催した。試合結果は、前年度に引き続きさいたま市立大谷場中学校が5連覇となる優勝、加須市立北川辺中学校が準優勝、第3位が羽生市立西中学校と羽生市立南中学校であった。羽生市スポーツ少年団野球部会及び参加校の協力のもと、スムーズな大会運営を行うことができた。また、県内の強豪校を含む市外チームの参加により、全試合において熱戦が繰り広げられた。</p>
	<p>教育長</p>	<p>報告事項12、13について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p>
	<p>図書館長兼郷土資料館長</p>	<p>8月4日に羽生市立図書館にて開催した。幼児～小学生の部、紙芝居講座の部、大人の部の3回に分けて開催し、全体で90名の参加があった。紙芝居講座の部では、ボランティアや委託業者の職員も参加し、今後の図書館の実施事業にプラスになるものとする。また、紙芝居の実施を周知した結果、普段あまり図書館に来ないという親子連れの方も参加してくれた。これからの図書館の利用が期待できそうである。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項13 企画展 I 「埼玉の自然を楽しむ」の結果について</p>	<p>図書館長兼郷土資料館長</p> <p>教育長</p> <p>柿沼委員</p> <p>学校教育課長</p> <p>岩崎委員</p>	<p>7月13日から8月26日までの39日間において、郷土資料館にて開催し、入場者数は7,229人であった。展示物は動物の剥製等である。関連事業として、8月3日にワークショップ「昆虫標本をつくろう」、展示解説会を開催した。アンケートによると、ほとんどの方から「満足している」との結果を得ることができた。中でも、触れる剥製が好評であった。</p> <p>報告事項に関して質問・意見を求めた。</p> <p>埼玉県及び全国の学力・学習状況調査について、各小・中学校で学力向上を頑張っているところであるが、学校だよりを見ると、学力向上について書かれている学校とそうでない学校があり、学力が上がってきている学校は自信を持って学校だよりに書いていると感じる。学校から家庭における取組を依頼することも必要であり、全学校で自信を持って学力向上について書けるようになることを期待する。</p> <p>それぞれの学校で、これらの調査の結果に基づいて自分の学校では何が足りなかったのか、どのような指導法をしていけば今後子どもたちが学力をつけることができるのか、各校が独自に分析をしており、「授業力向上」を合言葉に、教職員一人一人の指導力アップを目指している。学校がそれぞれ頑張っていることは把握しているので、教育委員会としても、全ての学校が保護者や地域の皆様に自信を持って「学力がこれだけ向上しました。」と言えるように支援していきたい。</p> <p>全国学力・学習状況調査では、質問紙調査の結果がとても興味深い。まず、もっと多くの子どもたちが、「自分には良いところがある」と回答できるようにしてほしい。また、「勉強が好きだ」「授業で学習したことは、将来役に立つ」との回答が県平均、全国平均より高い教科が多く、とても意識が高いと感じた。埼玉県学力・学習状況調査において、昨年度より正答率が少しず</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p>学校教育課長</p>	<p>つ上がっていることも、先生方が努力してくださっていることが良く分かる反面、子どもたちに意識が伝わっていくのに時間がかかっているとも感じる。子どもたちが、勉強に躓かないようにフォローをしていただき、質問紙調査の結果を成績に反映できる工夫ができれば良いと思う。</p> <p>質問紙調査は、学力とリンクしていると言われている。「自分には良いところがある」の項目は、自己肯定感を量ることができるが、小学校、中学校ともに、羽生市は埼玉県、全国と比較して低い現状である。これについては、日頃から些細なことでも教職員が子どもたちに対して、称賛の声かけをしながら認めてあげること、そして、子どもたちが自分には良いところがあると実感できるようにすることを心がけている。また、「勉強が好きだ」「授業で学習したことは将来役に立つ」という項目は、小学校、中学校ともに埼玉県、全国の平均より高いことは、教える側の教職員からすると、非常にありがたいことであり、子どもたちがそのような意識を持っていることに応えられるよう、教職員がしっかりと授業を進めていけるように、教育委員会も支援していきたい。</p>
	<p>平野委員</p>	<p>子どもたちが「勉強が好きだ」「授業で学習したことは、将来役に立つ」と思っているのに結果に結び付いてないということは、教え方を含め何か問題があるのではと考えてしまうが、いかがか。また、羽生市の教育では、英語に力を入れているが、中学校での「英語の勉強は好きだ」の質問に対し結果が低いのは、その力の入れ方がうまく伝わっていないのかもしれないと思うが、いかがか。</p>
	<p>学校教育課長</p>	<p>結果が結び付いていないことについて、教職員の指導力、授業力、教える内容等を分析していくと、それがすべての理由ではないが、各学校の様子を見ていると、指導していく側で子どもたちの実態を把握しきれないまま授業を進めており、その授業が子どもたちにうまく伝わっていない、効果的に指導ができていないという状況がうかがえる場合もある。現在、各学校において分析をした後、どのように授業を進め、指導したら</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>良いかを、具体的な対策を立てて実行し始めているところである。また、「英語の勉強は好きだ」については、埼玉県、全国の平均を下回っていることについては、羽生市では今年度から全校にALTを配置し、小学校1年生から英語に触れ、ALTとコミュニケーションを取ることができている。小学校では、書くことや文法を学習するよりも、話す、聞くことに重きを置いてコミュニケーション能力を高めるため、英語に触れる活動を通して英語を学んでいる。中学校では、3年生になると高校受験が控えているため、中学校から本格的に勉強として始まった英語であるため、好きだという気持ちが低く、難しいと感じたり、自分なりに勉強しているが思うように成績が伸びないという思う生徒が少なくないと捉えている。今後も、どのような授業を行えば英語が好きだと感じることができ、効果的に学力の向上に結び付けることができるかを意識して各学校が取り組んでいけるよう支援していきたい。</p> <p>平野委員 楽しんで勉強を好きになることは非常に良いことだと思う。その先にどのように展開していくか期待している。</p> <p>教育長 中学校英語の学習指導要領の領域等での区分による平均正答率を見ると、聞くことのポイント数は埼玉県、全国とそれほど差はなく、読むことについては、若干の開きがあり、書くことについての差が大きく開いている。聞いたり話したりすることは抵抗がなくなってきたが、しっかり書いて覚えるという、そこまでの学習が成り立っていないことが、よく表れている。これからの英語は「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を総合的に学習することになり、何を強化しなければならないかという分析もできるので、ALTを活用することによって、読んだり聞いたりすることに加え、書くことで喜びを味わえば、英語の「勉強が好きだ」「授業で学習したことは将来役に立つ」という意識も強まるのではないかと思う。委員の御意見のとおり、質問紙調査の結果は興味深いものである。中学生では「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」との回答が約6割であり、埼玉県、全国の平均よりも高い。家でどんな勉強をしているのか、その質も含め教職員が指導していくことが、これか</p>



会議事件名	て ん 末	
		<p>らは必要であると考え。授業改善も進めながら、家庭学習しなくてはいけないという子どもたちが、あと 4 割いるということを念頭に、校長研究協議会、教頭研究協議会でも指導していかなければならないと思う。</p>
	学校教育部長	<p>学校訪問した際に、家庭学習の指導も依頼している。自分で計画を立て勉強することについては、中学校になると、より自覚が出て埼玉県、全国の平均より高い数値になったと考える。しかし、小学校 6 年生の段階だと、埼玉県の平均より低く、全国の平均より高いという状況である。各学校では、家庭学習について非常に工夫をされており、校長が自ら家庭学習ノートにサインをして励ましの言葉を書き入れたり、各学校で頑張りシールを与えて励ましの評価をしているので、今後効果が現れてくることを期待している。</p>
	教育長	<p>全校の学校だより 9 月号を拝見すると、柿沼委員の話にもあったように、学力向上について掲載している学校がある。学校だよりを通じて保護者や地域に協力を求めるという方法もあると考える。学力が向上し、子どもたちも教職員も喜びを得られるような結果になることを強く願っている。</p>
	高瀬委員	<p>羽生市の学力向上への取組の中で実施している、重点取組課題の焦点化を基にした各学校の重点取組実施計画書は、教育委員会から作成方法を具体的に示しているのか、または各学校が任意の形態で作成しているのか。</p>
	学校教育課長	<p>重点取組実施計画書は、教育委員会で様式を定め、全ての学校が同じ形態で作成するよう指示している。どのようなことについて分析し、学力向上に向けてどのように取り組んでいくか、学校管理職、教務主任や主幹教諭、学力向上担当の教職員が先頭になり、学校としてどのように進めていくかという具体的な計画を立て、8 月末までに教育委員会に提出している。重点取組実施計画を基に、各学校を訪問し、指導を行っている。</p>

		て ん 末
	平野委員	いじめの数についての報告において、昨年と比較して件数が増えているが、毎年の変動の範囲として想定できる程度なのか、または、いじめが増えているという傾向であるのか。
	学校教育課長	いじめの有無については、毎月、全ての学校から報告することとなっている。いじめがあった場合は、その内容及び学校でどのような対応をしたのかということも併せて報告を求めている。昨年度と比較して増えたように見えるが、学校からの報告書を見る限りでは、いじめが増加傾向にあるというよりも、各学校で、以前であれば見逃していたような小さなトラブルでもいじめであるかどうか正しく認識し、報告するようになったためと捉えている。また、それらの案件については、しっかりと保護者も交えて対応ができていると報告されている。
	高瀬委員	不登校数の報告について、小学校、中学校の合計が36人とのことであるが、不登校になってしまった理由はどのようになっているか。
	学校教育課長	進級して環境が変わり、学校にだんだん行けなくなったとい事案、クラスの中や部活動の中での友達同士の関係がスムーズにいかなくなったことが原因となっている事案等の心理的原因や、怠学、いわゆる怠けが原因である事案もある。不登校数は昨年度の同時期と比べると増えているが、理由、原因に特に大きな違いはない。保護者からスクールソーシャルワーカーや適応指導教室への申し出があって相談を続けている児童生徒もいる。各学校では、不登校の児童生徒に対し、家庭や関係機関と連携を図りながら、少しでも家の外に出られるよう、最終的には学校に通うことができるよう、様々な取組を行っている。
	柿沼委員	古写真のパネル展示について、地域の歴史を知ることはとても良いことだと思う。社会科で県や市町村独自の教科書を使用するように、郷土愛につながっていく事業であると思う。古写真のパネルを学校に持って行ったり、ホームページに掲載したり、市民が目にする機会を増やしてはいかかがか。

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 協議事項1 令和2年度当初教職員人事異動の方針</p>	生涯学習課長	<p>今回展示する写真は、郷土資料館所蔵のもの、市制65周年記念のために市民から集めたものなど、30枚から40枚を使用する予定である。柿沼委員の意見のとおり、できるだけ多くの方に見ていただけるようにしていきたい。</p>
	教育長	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>協議事項1について、学校教育課長から説明を求めた。</p>
	学校教育課長	<p>羽生市教育の一層の充実発展を図るため、埼玉県教育委員会の「令和2年度当初教職員人事異動の方針」及び「令和2年度当初市町村立小・中学校等教職員人事異動方針細部事項」を踏まえながら他市町村教育委員会と密接な連携のもとに、円滑・適正な人事を行い、市内学校教育の充実発展を推進するものである。その他、各学校の教職員組織の充実と均衡化、特色ある学校づくり、適材を適時に適所に配置すること、広範かつ適正な異動の推進、再任用職員の適切な配置などを掲げている。退職については、教職員の年齢構成不均衡を解消するため、勧奨退職制度活用を図る。転任・転補については、教職員の意向を把握し、教職員の特性・能力、勤務実績・勤務経験、各学校の教職員構成などを考慮し、適材を適時に適所に配置したい。</p>
	教育長	<p>協議事項1について、質問・意見を求めた。</p> <p>特になし</p>
	教育長	<p>協議事項1については、よろしいか。</p>

会議事件名	て ん 末	
閉会	教育長	<p>異議なしの声あり</p> <p>協議事項 1 は、承認された旨宣した。</p>
	教育長	<p>次回教育委員会日程について、事務局より説明の旨。</p>
	教育総務課長	<p>10月定例教育委員会は、10月16日 午後3時より、教育委員室にて開催する。</p>
	教育長	<p>閉会を宣した。</p> <p>教育長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p>